

27年度全国学力・学習状況調査から

高い学力、でも家庭での学習時間は少ない児童、生徒

東川の小、中学生の学力は、昨年に引き続き全国平均レベルを上回っていることが分かりました。反面、家庭学習と生活習慣調査からは、帰宅後の自宅学習時間が相変わらず少なく、家でテレビを見、テレビゲーム、スマートフォンに触っている時間が全国平均に比べて高いという結果が分かりました。塾（家庭教師を含む）に通っていない割合は、変わらず高いことも分かりました。

今年4月21日、文部科学省が実施した27年度全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。町内の4小学校（東川小、東川第一小、東川第二小、東川第三小）の6年生71人、東川中学校の3年生82人を対象に実施しました。道内は小学校千76校4万2千68人、中学校610校4万9666人、全国小学校2万33校106万千301人、中学校9千731校101万6千737人が対象となりました。

小学生

「国語A」は、全体としていずれの項目も全道を上回り、全国平均も1・4ポイント上回っていました。特に「読むこと」の正答率60・2%は、全国平均に比べ5・0ポイント高い結果でした。

反面「書くこと」で0・1ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では0・2ポイントそれぞれ全国平均を下回りました。

「国語B」では、総じて全国、全道平均より正答率が高く、「書くこと」の正答率が全国平均より2・5ポイント高く、全道平均よりも5・2ポイント高かったのが特徴的。「国語への関心、意欲、態度」も正答率全国平均より4・8ポイント上回りました。

「算数A」は、「数と計算」で正答率が全国より4・2ポイント高くなりました。しかし「量と測定」「図形」「数量関係」はともに全国を下回りました。小数点、除数が整数である分数の除法計算、さらに円の図形や測定分野で全国平均に比べて正答率が低くなりました。

「算数B」は全国平均レベルでしたが、前年に比べて正答率、正答数ともに下がりました。「理科」は総じて平均を上回り、比較的強い結果ができました。

◇ 日ごろの生活習慣への回答からは、

「朝食を毎日食べている」が80・3%で、全道平均を4・6ポイント、全国平均を7・3ポイント下回りました。

「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的回答が77・5%で、全道平均73・9%、全国平均76・4%を上回りました。

反面「自分には、よいところがあると思いますか」では、肯定的回答は69・0%で、全道平均に比べて4・1ポイント低く、全国に比べて7・4ポイントも低くなりました。

将来の夢、目標に対する肯定的回答は80・3%。全道平均に比べて4・7ポイント低く、全国に比べて6・2ポイント低くなりました。

平日のテレビ、ビデオ、DVD視聴（勉強のために見たり、テレビゲームをする時間除く）は、「4時間以上」26・8%、「3〜4時間」7・0%で

した。いずれも全道、全国平均前後でしたが、「4時間以上」は、全道平均より4・8ポイント、全国平均より7・6ポイントも高い結果でした。

平日1日当たりテレビゲーム時間（コンピューター、携帯ゲーム、携帯電話、スマートフォン含む）は、「4時間以上」16・9%で、全道平均より4・2ポイント、全国平均より7・8ポイントそれぞれ高くなりました。

「1〜2時間」「1時間より少ない」「まったくしない」もそれぞれ19・7%、23・9%、26・8%あり、2極化の傾向を示しています。

中学校

「国語A」は、「話すこと、聞くこと」の平均正答率が84・8%と全道に比べて5ポイント、全国に比べて4・8ポイントそれぞれ高いなど、どの項目も平均を上回りました。

「国語B」も各項目とも平均を上回る学力を示しました。